

米国経済・金融概況 (2025年6月)

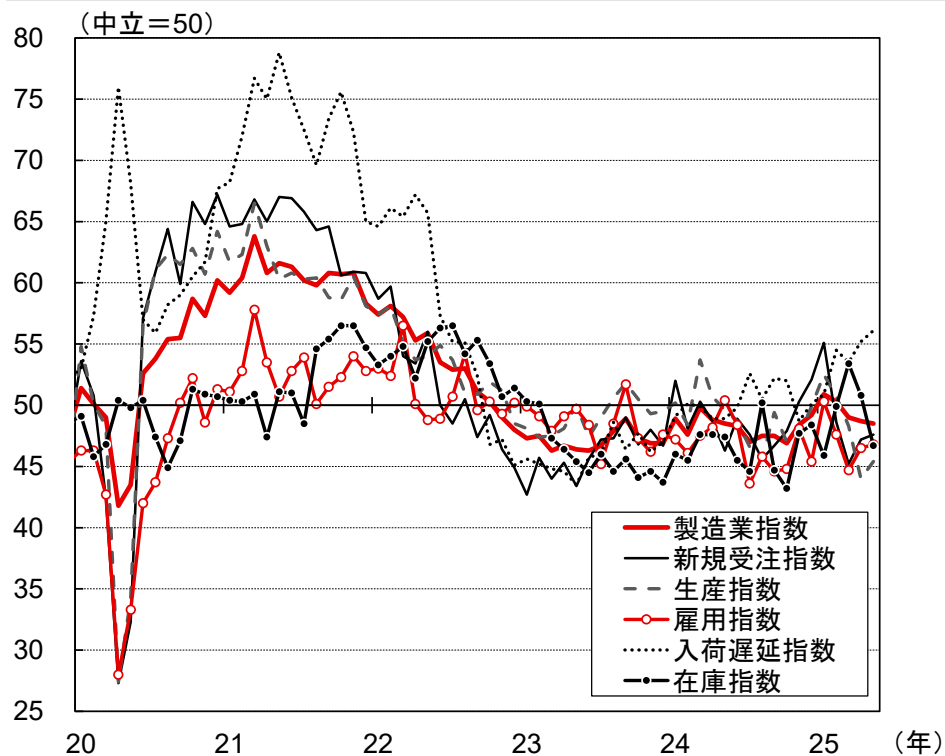
2025年6月20日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

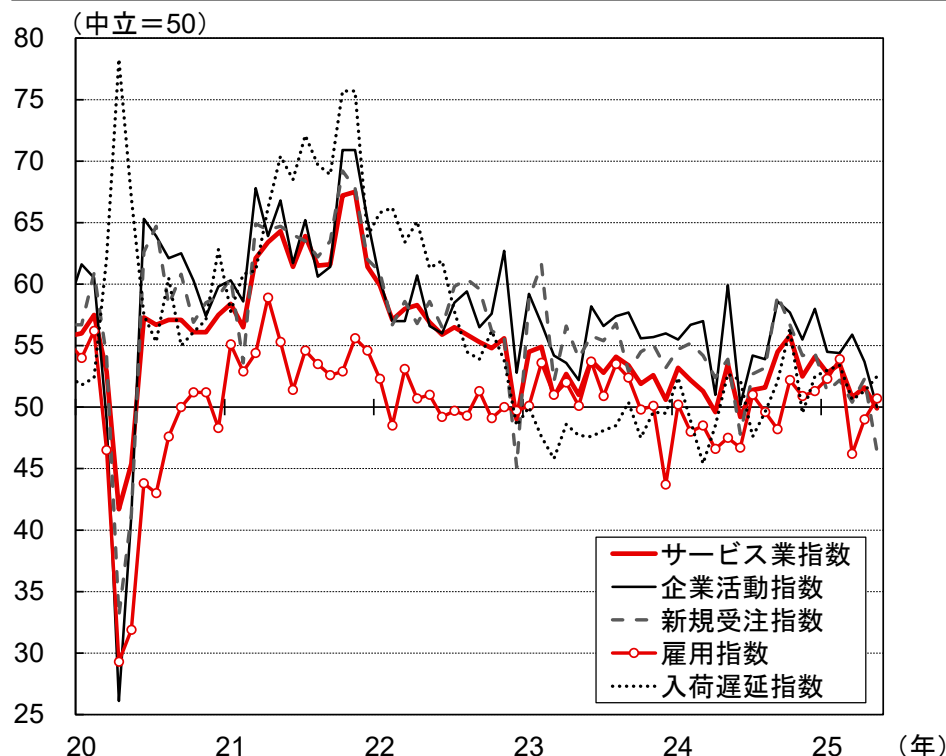
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、5月に48.5(前月比▲0.2ポイント)と4ヵ月連続で低下。指数の構成項目をみると、生産指数(45.4、同+1.4ポイント)、入荷遅延指数(56.1、同+0.9ポイント)、新規受注指数(47.6、同+0.4ポイント)、雇用指数(46.8、同+0.3ポイント)はそれぞれ上昇も、在庫指数(46.7、同▲4.1ポイント)が大幅に低下。「ほとんどのサプライヤーは関税を全額転嫁してきた(化学製品)」「様子見の段階に入った(一次金属)」等のコメント。産業別では全18産業のうち7産業が拡大、7産業が縮小、4産業が横這いを報告(4月は11産業が拡大、6産業が縮小、1産業が横這い)。
- 5月のISMサービス業指数(総合指数)は49.9(前月比▲1.7ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。雇用指数(50.7、同+1.7ポイント)、入荷遅延指数(52.5、同+1.2ポイント)は上昇した一方、新規受注指数(46.4、同▲5.9ポイント)、企業活動指数(50.0、同▲3.7ポイント)が大幅に低下。なお、価格指数(68.7、同+3.6ポイント)は2022年11月以来の水準まで上昇。産業別では全18産業のうち10産業が拡大、8産業が縮小を報告(4月は11産業が拡大、6産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

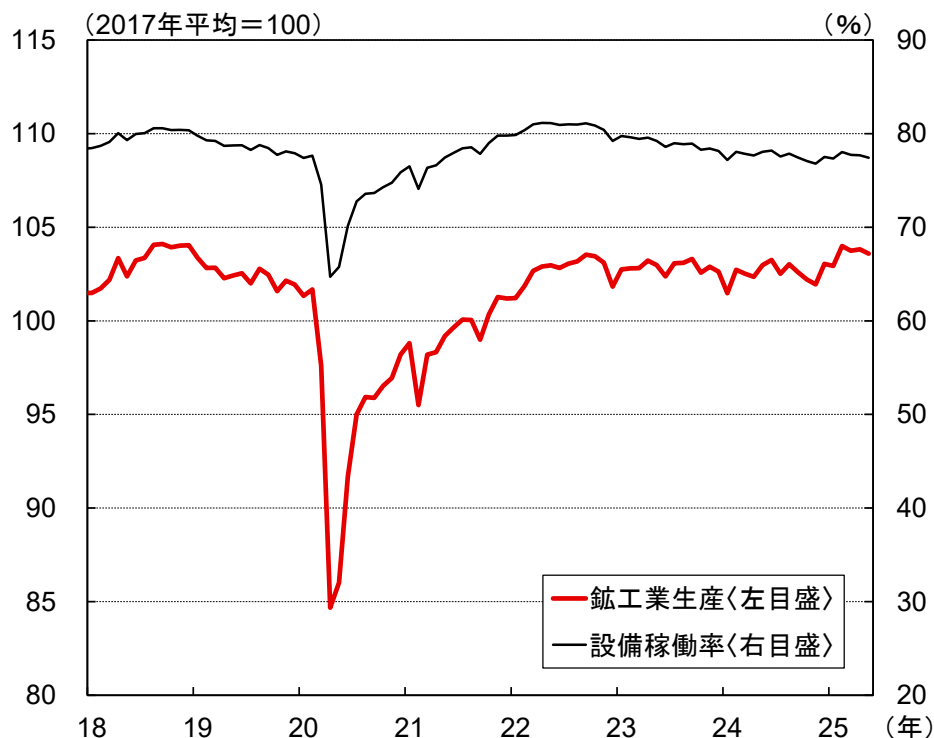


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

- 5月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と2ヵ月ぶりに減少。産業別にみると、「製造業」(同+0.1%)、「鉱業」(同+0.1%)はそれぞれ小幅増加した一方、「公益事業(電気・ガス)」(同▲2.9%)の減少が全体を下押し。「製造業」は「自動車・同部品」(同+4.9%)が大幅に増加した一方、「非金属鉱物製品」(同▲1.6%)、「金属製品」(同▲1.2%)、「機械」(同▲1.0%)は減少し、鉄鋼・アルミニウム等への追加関税が今後も重石となる可能性。5月の設備稼働率は77.4%と前月から0.3%ポイント低下。
- 4月の耐久財受注は前月比▲6.3%と5ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、「輸送用機器」が同▲17.1%と、変動の大きい「民間航空機」(同▲51.5%)の大幅減少や「自動車・同部品」(同▲2.9%)の減少が全体を下押し。また、「電機・家電」(同▲0.3%)、「一次金属」(同▲0.1%)が減少した一方、「コンピュータ・電子部品」(同+1.0%)、「金属製品」(同+0.9%)、「機械」(同+0.6%)は増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同▲1.5%と2ヵ月ぶりに減少。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

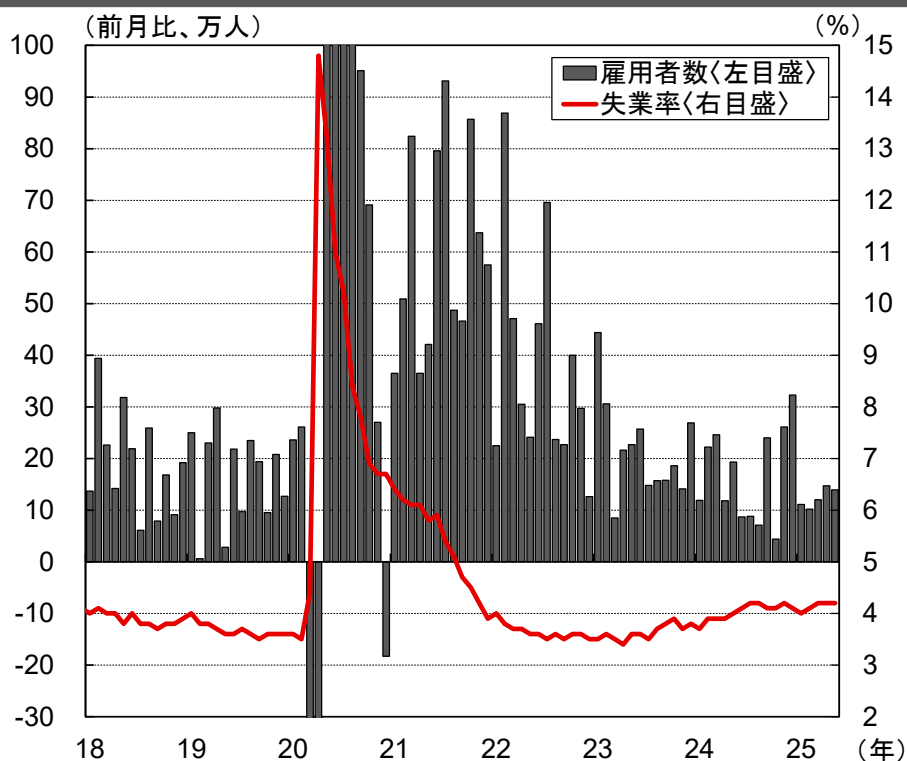


(資料) 米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

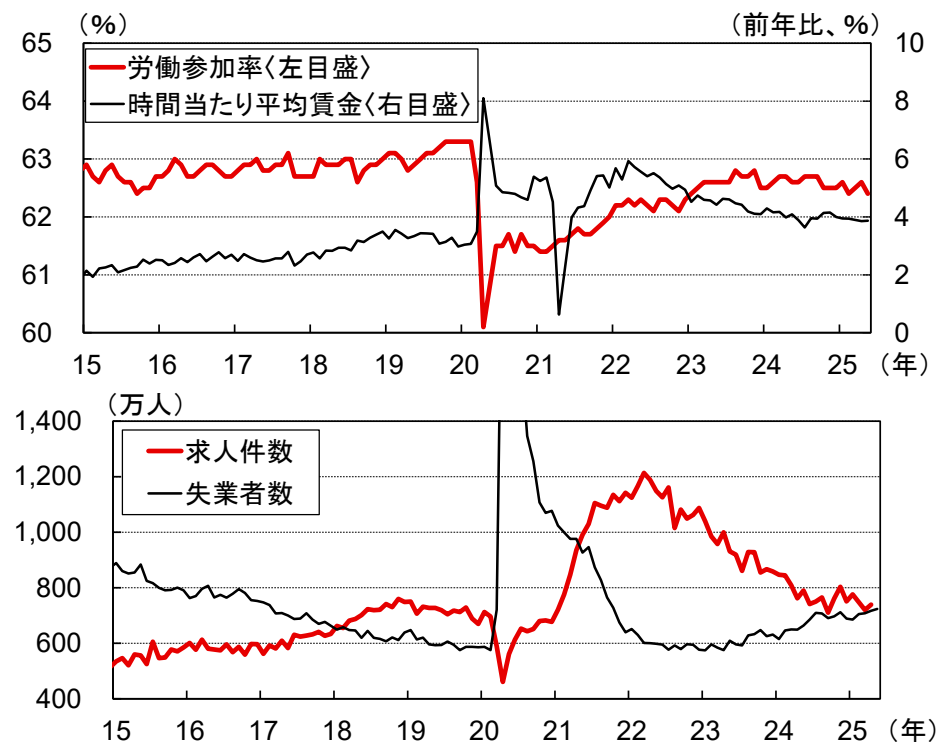
- 5月の非農業部門雇用者数は前月比+13.9万人(4月:同+14.7万人、改定値)と底堅さを維持した一方、3月、4月は合わせて同▲9.5万人の下方修正。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+7.8万人)、「レジャー・接客」(同+4.8万人)、「金融・不動産」(同+1.3万人)が増加した一方、「専門・ビジネスサービス」(同▲1.8万人)、「製造業」(同▲0.8万人)、「小売業」(同▲0.7万人)は減少。また、トランプ政権の連邦政府縮小の動きを受けて「政府」(同▲0.1万人)のうち「連邦政府」(同▲2.2万人)は4ヵ月連続で減少。
- 5月の失業率は4.2%と前月から横這い。一方、労働参加率は62.4%(前月差▲0.2%ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.9%と前月から伸びは横這い。
- 4月の求人件数は739.1万件(前月比+19.1万件)と3ヵ月ぶりに増加。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.03倍と前月(1.02倍)から小幅上昇。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

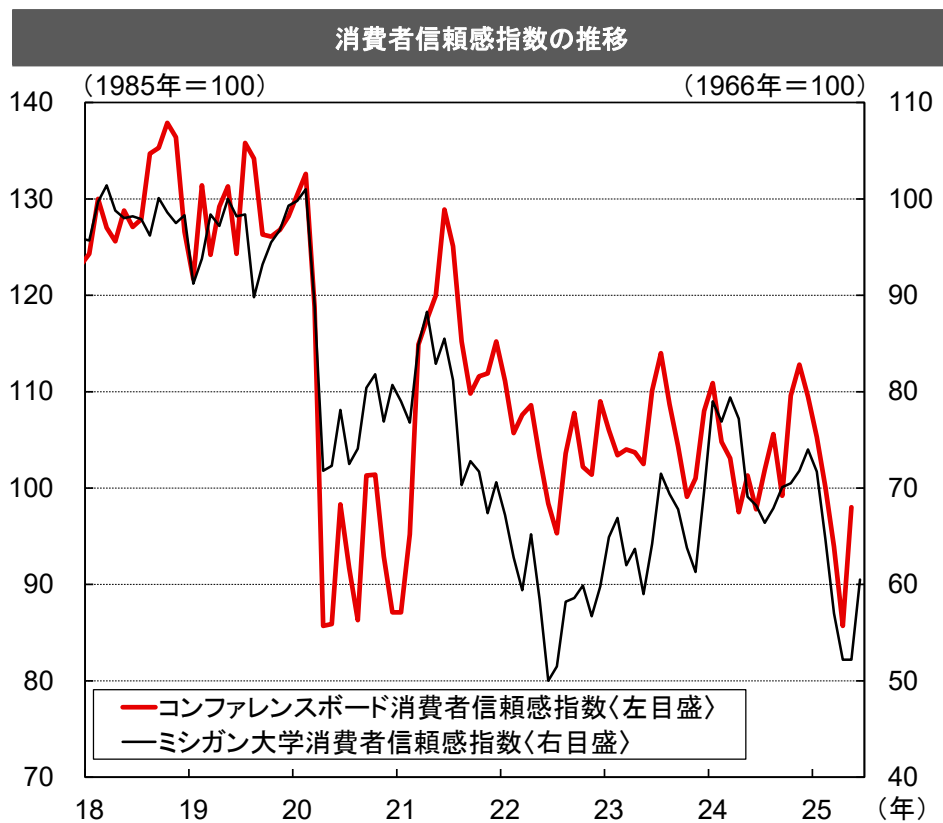
労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移



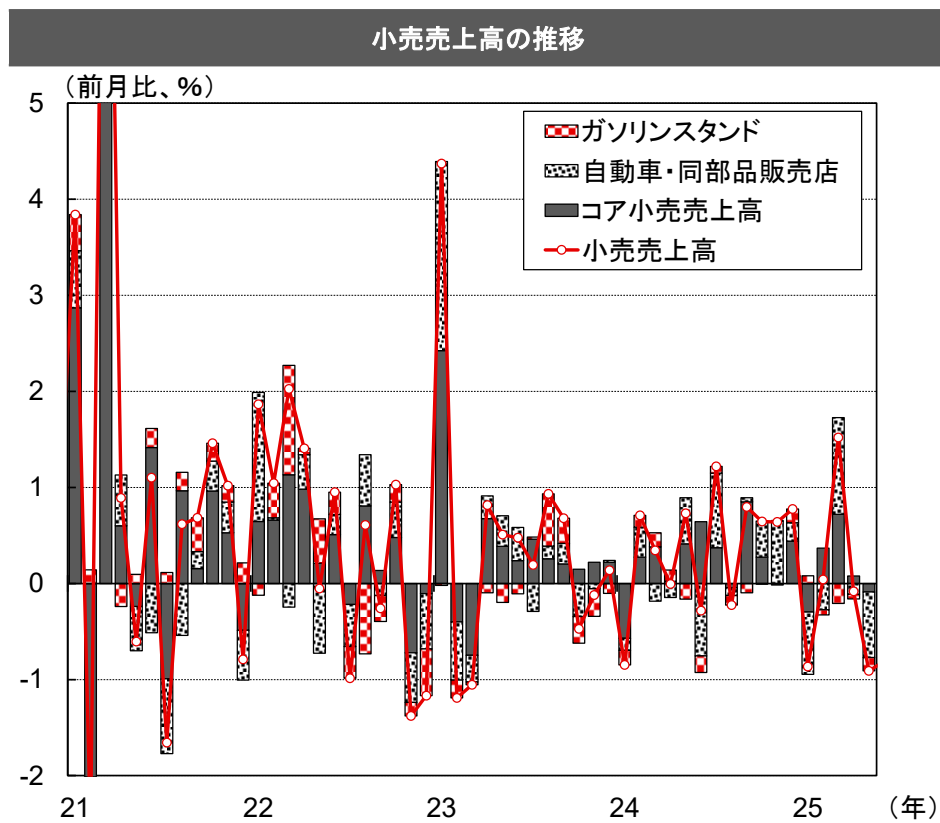
(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

- 5月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は98.0(前月比+12.3ポイント)、6月のミシガン大学消費者信頼感指数は60.5(同+8.3ポイント)と、米中間の関税引き下げ合意等を受けてそれぞれ持ち直し。ミシガン大学の期待インフレ率も1年先は5.1%(前月:6.6%)、5-10年先は4.1%(前月:4.2%)とそれぞれ低下。
- 5月の小売売上高は前月比▲0.9%(4月:同▲0.1%、改定値)と2ヵ月連続で減少。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同▲0.1%(4月:同+0.1%、改定値)と小幅減少。業種別にみると、関税引き上げに伴う駆け込みの反動で「自動車・部品販売店」(同▲3.5%)が大幅に減少したほか、「建材・園芸用品店」(同▲2.7%)、「飲食店」(同▲0.9%)、「食品・飲料店」(同▲0.7%)、「電機・家電販売店」(同▲0.6%)も減少。一方、「家具販売店」(同+1.2%)、「無店舗小売店」(同+0.9%)、「衣料品店」(同+0.8%)は増加。



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

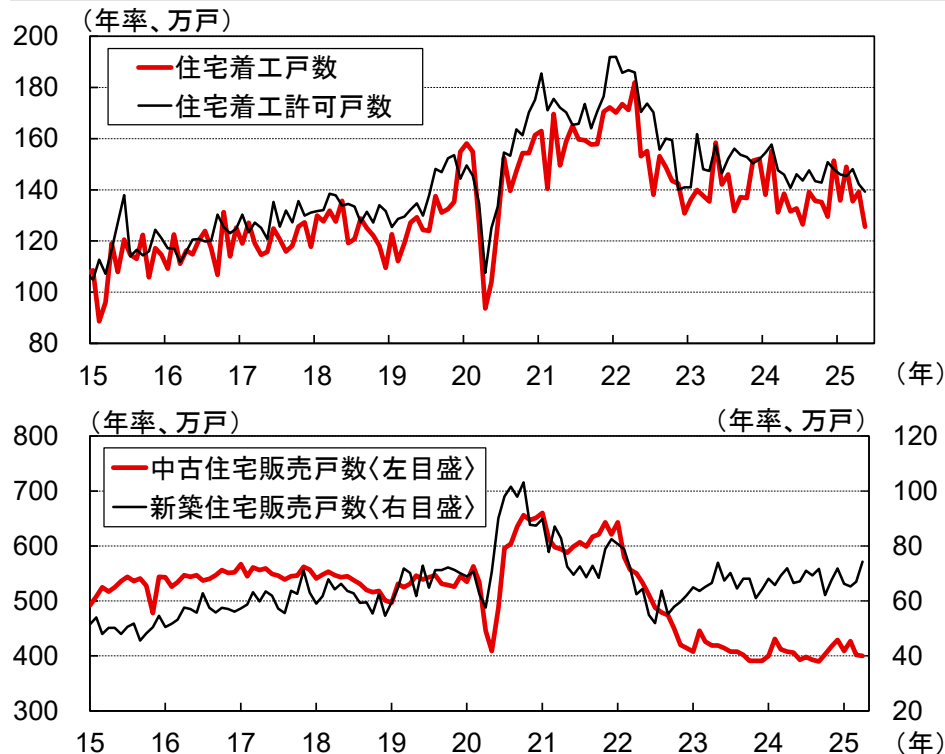


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

- 5月の住宅着工戸数は前月比▲9.8%の年率125.6万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同▲30.4%と大幅に減少し、一戸建住宅は同+0.4%と小幅増加に止まった。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲2.0%の年率139.3万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。
- 4月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲0.5%の年率400万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。一方、新築住宅は同+10.9%の年率74.3万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。
- 4月の住宅販売価格は、中古住宅が414,000ドル(中央値)、前年比+1.8%(3月:同+2.6%)と4ヵ月連続で伸びが鈍化。新築住宅は407,200ドル(中央値)、同▲2.0%と4ヵ月連続で下落し、下落幅は前月(3月:同▲7.5%)から縮小。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

- 5月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.4%(4月:同+2.3%)と2ヵ月ぶりに加速、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.8%と伸びは横這い。一方、前月比では総合指数、コア指数ともに+0.1%と予想を下回り、関税引き上げの影響は顕著には見られなかった。品目別にみると、「食品」は同+2.9%(4月:同+2.8%)と伸びが加速した一方、「ガソリン」は同▲12.0%(4月:同▲11.8%)と下落幅が拡大。コア指数の構成項目は、ウェイトの大きい「航空運賃」が同▲7.3%(4月:同▲7.9%)と下落幅が縮小したほか、「中古自動車」は同+1.8%(4月:同+1.5%)、「新車」は同+0.4%(同+0.3%)とそれぞれ伸びが加速。一方、「衣料品」は同▲0.9%(4月:同▲0.7%)と下落幅が拡大。
- 5月の生産者物価指数は前年比+2.6%(4月:同+2.5%)と伸びが加速。内訳をみると、「財」は同+1.3%(4月:同+0.5%)と4ヵ月ぶりに加速した一方、「サービス」は同+3.2%(4月:同+3.4%)と2ヵ月連続で鈍化。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.0%(4月:同+3.2%)と2ヵ月連続で鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

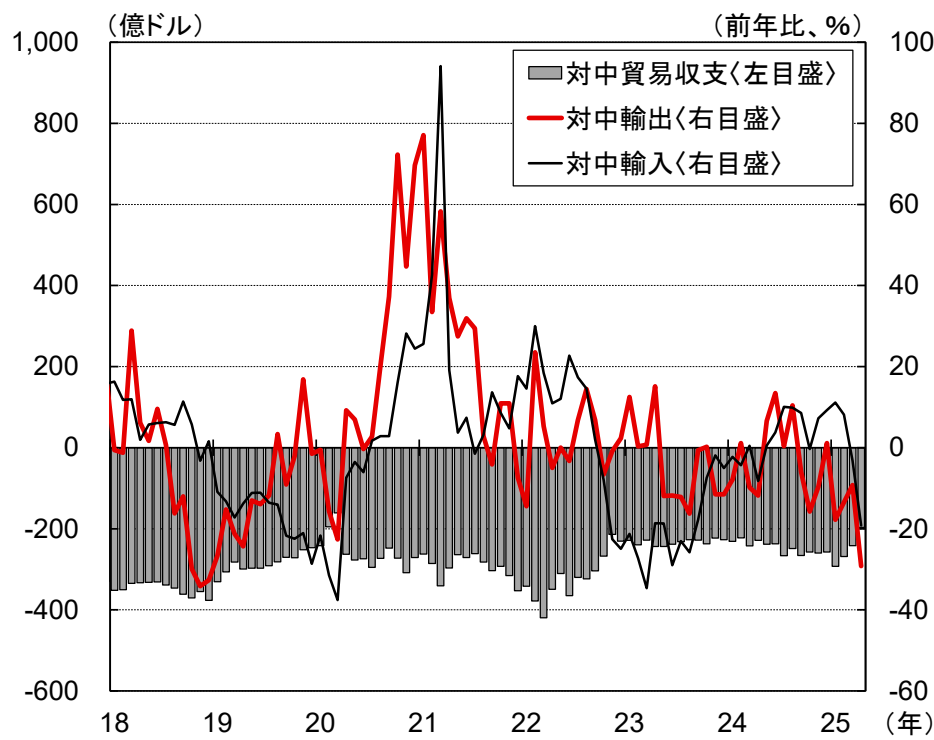
- 4月の貿易収支(財・サービス)は616億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲55.5%(同▲767億ドル)と大幅に縮小。輸出は同+3.0%(同+83億ドル)、輸入は同▲16.3%(同▲684億ドル)と、関税引き上げ前の駆け込みの反動で輸入が大幅に減少。前年比でみると、輸出は+8.6%、輸入は+3.4%。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、中国は4月に197億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲18.5%(同▲45億ドル)と縮小。対中輸出(財)は同▲19.7%(同▲21億ドル)、対中輸入は同▲18.9%(同▲66億ドル)と、米中間の関税引き上げの影響で大幅に減少。前年比でみると、対中輸出(財)は▲29.2%、対中輸入は(財)は▲19.2%。
- 対EUの貿易収支は179億ドルの赤字(赤字幅は前月比▲62.6%)、対カナダは26億ドルの赤字(同▲47.9%)、対メキシコは135億ドルの赤字(同▲20.3%)となった。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、トランプ政権が掲げる減税策を盛り込んだ歳出法案の議会審議を巡り、財政悪化懸念から5月下旬に4.6%近くまで上昇。一方、6月上旬に公表されたインフレ指標は関税引き上げの影響が顕著に見られず、予想を下回ったほか、中東情勢を巡る地政学リスクの高まりから、足元ではやや低下基調で推移。
- ダウ平均株価は、トランプ政権の関税政策を巡る不透明感が和らぎつつある中、持ち直しが継続。ただし、中東情勢の緊迫化を巡り、足元では方向感を欠く展開。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp